

Title	日本WHO協会・生産技術振興協会共催 COVID-19とSDGs オンラインセミナー第2回 「だれひとり取り残されな い!」
Author(s)	柳澤, 沙也子
Citation	目で見るとWHO. 2020, 74, p. 6-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86511
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

日本WHO協会・生産技術振興協会共催 COVID-19とSDGsオンラインセミナー 第2回 「だれひとり取り残されない！」



甲南女子大学 大学院研究生

柳澤沙也子

看護師として病院等で勤務した後、2015～17年JICA青年海外協力隊としてインドネシア共和国派遣。NPO法人Rehab-Care for ASIAインドネシア事業リーダー。

2020年6月3日、日本WHO協会・生産技術振興協会の第2回ジョイントセミナーとして第9回関西グローバルヘルスの集いを開催しました。関西グローバルヘルスの集いは、2019年から奇数月の第1水曜日に大阪市本町にて開催してきました。しかし、COVID-19の感染拡大を受け、face to faceで集まることができなくなったため、5・6・7月は日本WHO協会・生産技術振興協会ジョイントセミナーとしてYouTubeライブ配信を行いました。第2回は5月25日に全国で緊急事態宣言が解除された翌週に行われました。徐々に人々の往来は増えつつあるものの感染拡大の懸念が残る中でのオンライン開催です。なお、第1回の詳細は、目で見るとWHO2020年夏号をご参照ください。

「だれひとり取り残されない！」

今回のテーマは、「だれひとり取り残されない！」です。ファシリテーターの中村安秀氏（日本WHO協会理事長）が趣旨説明を行った後、SDGs、在日外国人、シンガポール、香港およびイギリスの現状について話題を提供いただきました。

まず、『だれひとり取り残されない！SDGsの理念はいまどこに？』と題し、安田直史氏（近畿大学、日本WHO協会理事）にご登壇いただきました。MDGsで世界の絶対貧困率は、数値的には改善したものの、それは平均値の数値的な改善のみであり、それだけに目を向けると、マイノリティは取り残されがちになるという課題が残りました。

SDGsではこの流れを引き継ぎ、「誰ひとり取り残されない」を理念とし在日外国人や少数民族、障害者や貧困家庭といった取り残されがちな人々にも目を向けることの必要性を訴えています。アメリカでは黒人種人のCOVID-19感染率が高くなっています。2019年8月、SDGsのポスターは若干修正され、「我々が住む世界を違う形に作り替える（17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD）」という言葉は記載されなくなりました。しかし、このコロナ禍をチャンスととらえ、今こそ誰ひとり取り残されない世界に作り替えることの必要性が訴えられました。

続いて、『日本で暮らす外国人のいま』と題し、小島祥美氏（愛知淑徳大学）にご登壇いただきました。外国人住民は2019年末現在で過去最高の約293万人となりました。2月に入ると、日本国内でもコロナ禍で外国人労働者の派遣切りや雇用止めが起り、3月には多言語対応相談会や外国人コミュニティ、教会で食糧支援が行われました。厚生労働省のホームページ等、徐々に多言語での情報発信が行われるようになりました。外国人の子どもは就学義務の対象外であり、学校に通っていない子どもは約2.2万人といわれています。外国人学校は学校保健安全法の適用外扱いであることから、そこに通う子供たちは健康診断等を受けられない場合があります。だれひとり取

昨年、SDGsのポスターデザインが変更された。

「我々の世界を違う形に作り替える」はどこへ行ってしまったの？



図1 「世界を違う形に作り替える」はどこへ？（安田氏プレゼン資料より）

り残されないために、平時に可視化されない子供たちの就学と健康を取り残さない取り組みが重要であると訴えられました。

その後、『シンガポールの外国人労働者』と題し、林啓一氏（ラッフルズジャパンーズクリニック）にご登壇いただきました。COVID-19の流行下、シンガポールでは首相や外務大臣が、海外にいるシンガポール人やシンガポール国内の外国人労働者も含め、誰ひとり取り残さないと語った動画をご紹介いただきました。シンガポールは当初 COVID-19 患者の発生を抑制できていましたが、3月末から行動を追跡できない症例が増え、外国人労働者の寮でクラスターが発生しました。個人用防護具は政府から支給された等、医療現場の最前線における現状もご紹介いただきました。アーティストでもある医師が、外国人労働者の寮で多言語による情報提供を行ったり、ロボットが施設内で薬を配布する等、様々な工夫もされているとのことでした。政府や企業のトップが給与を返す等、シンガポールにおけるリーダーシップとフォローアップの素晴らしさを垣間見ました。

最後に、『イギリスの新型コロナウイルス対策』と題し、村松成一氏（ロンドン医療センター：ロンドン）・伊原鉄二郎氏（ロンドン医療センター：香港診療所）にご登壇いただきました。伊原氏からは香港における COVID-19 の感染状況をご紹介いただきました。香港では COVID-19 感染者の死者は極めて少なく、理由として SARS の経験から感染症に対する市民の意識が高いことによると推測されているとのことでした。村松氏からはイギリスの現状等についてお話いただきました。ロンドン医療センターは、イギリスの日系病院では初めての試みとして遠隔診療を展開し、イギリスに滞在する多くの邦人患者に対応されたそうです。さらに、スタッフの人数が限られる中でも 24 時間サービスを維持されたとのこと。イギリスでも COVID-19 重傷者の 35% は黒人種または他の少数人種であることから、COVID-19 の感染



写真1 関係者集合写真

拡大は公衆衛生の問題であると同時に社会福祉の問題であるとされています。ロックダウンによる家庭内暴力や虐待の増加に対し、イギリス政府は、慈善団体や男性・女性・LGBT のヘルプラインに多額の予算を拠出しているとのことでした。

このような大変充実した話題提供の後、YouTube のコメント欄にいただいた質問への回答とまとめを行い終了しました。

2 回目のオンライン開催

今回のセミナーは、広報を行った期間が 10 日程しかありませんでした。しかし、わずかな期間に 736 名の方にお申込みいただき、当日の総視聴回数は 700 以上でした。前回同様、大阪を含む関西のみならず日本各地、さらにタイやベトナム、イギリス等、国からご参加いただきました。話題提供者に香港やシンガポールからご登壇いただいて現場の生の声を伺えたことは、オンラインだからこそできた取り組みです。開催後もなく申込者にアンケートを送付し、記憶に新しいうちに様々な感想をいただきました。以下、参加者からの感想の一部をご紹介します。

・自分自身、気付いていなかった問題点を改めて振り返ることができました。「日本に暮らす様々な国や文化にルーツを持つ人々が取り残されることのない」ということは、全ての人が暮らしやすい国になるんだと感じました。また、海外の

政策や取り組みを正確に把握することで、日本を客観的に見るのが大事だと思いました。（以下略）

・国内の在留外国人家庭の教育問題や、海外在住の複数の先生からの刻々と変化する各地の状況とその対策など、COVID-19 により顕在化した幅広い分野のお話が、素晴らしい演者の先生方から直接うかがえるのは、Webinar ならではの、貴協会にしかできない素晴らしい企画だと思いました。（以下略）

最後になりましたが、第 9 回関西グローバルヘルスの集いにご参加いただきました皆様をはじめ、登壇者、関係者の方々、ありがとうございました。今回の YouTube ライブ配信の映像は公開していませんが、プレゼン資料の一部は日本 WHO 協会のホームページ <https://japan-who.or.jp/about-us/notice/2006-21/>（QR コードからもアクセス可能）に掲載されております。どうぞご活用ください。



プレゼン資料QRコード